

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700091	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社二チイ学館		
事業所名	二チイケアセンター洋光台		
所在地	(〒235-0045)		
	神奈川県横浜市磯子区洋光台3-16-32		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年9月4日	評価結果 市町村受理日	令和1年5月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>駅から3分という好立地にもかかわらず、閑静な住宅街にあるホームです。駅周辺には商業施設が多くあり、ご利用者様と買物やお散歩に出かけ四季を肌で感じる場面作りをしています。</p> <p>「拘束をしないホーム・明るい笑顔のあるホーム」を事業所理念とし、毎日朝礼で唱和を行っています。</p> <p>常に行為・言動が拘束につながっていないかを確認し、ご利用者様が毎日笑顔でお過ごしいただける様なケアを行っています。</p> <p>また、地域に根付いたホームづくりを目指し、町内会の夏祭りに参加したり中学校との交流を行っています。</p> <p>介護相談員を導入してサービスの質の向上を目指しています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	平成30年9月20日	評価機関 評価決定日	平成30年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR根岸線の洋光台駅から徒歩3分という至近に立地している。駅前は、商業施設やURの団地群等で賑わい、利便性の高い地域である。事業所周辺は、駅から近いにもかかわらず、戸建て住宅が建ち並ぶ閑静な住宅地であり、大変環境に恵まれている。建物は木造2階建てである。各階に1ユニットずつ配置された2ユニットの事業所で、周辺環境に馴染んだ外観となっている。</p> <p>【理念の実践】 事業所の理念は、「拘束をしないホーム、明るい笑顔のあるホーム」であり、毎日の朝礼の際、唱和して職員間で理念の共有に努めている。玄関は、施錠されておらず、訪問者も利用者も出入りが自由になっている。利用者は、拘束感のない事業所で、職員に見守られながらゆったりとした生活を送っている。日中は、ほとんどリビングで過ごしており、歌を口ずさんだり、お互いに話しかけたりして、明るい表情が見られる。</p> <p>【居心地の良い共用空間】 リビング等の共用空間は、毎日の清掃が行き届いている。特にトイレは、消毒液を使って拭き掃除をし、常に清潔にしてある。換気にも気を配っており、フロア全体がさわやかである。リビング兼食堂は、対面式キッチンのカウンター越しに、職員の目が行き届く構造になっており、職員は調理をしながら、見守りを行っている。リビングの外は広いテラスがあり、利用者の外気浴に利用したり、春には庭に咲く梅の花を見に、2階ユニットの利用者も訪ねて来ている。</p> <p>【入浴を楽しむ】 入浴は、週2回、午前中が原則であるが、利用者の希望に応じて、午後の時間帯や毎日の入浴も可能である。石鹸やシャンプーは、希望があれば、好みのものを購入して使用できるなど、利用者が入浴を楽しめる工夫をしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	二チイケアセンター洋光台
ユニット名	ひまわり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に暮らす一員として、明るく笑顔で毎日の生活が送れるよう毎朝の朝礼で理念を唱和し共有し意識を高め実践を心がけている。	理念の「拘束をしないホーム、明るい笑顔のあるホーム」は、事業所開設以来、受け継がれている。職員は、毎日の朝礼で唱和し、理念の実践に努めている。利用者が、拘束感のない環境で、ゆったりとした生活を送れることを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内とのつながりを持っている。町内会のスタンドパイプ式放水器を預かったり、中学校の体験学習の受け入れを行うなど交流の機会を持っている。	町内会に加入し、地域の夏祭りに利用者、職員が参加して楽しんでいる。地域と連携して防災訓練に取り組み、事業所敷地内に町内会の消火資機材格納庫を設置している。毎年、近隣中学校の福祉体験学習を受け入れ、交流している。ハロウィンの時期には、近くの学習教室の子どもたちが仮装して来訪している。老人会のコーラスボランティアや庭の除草ボランティアの来訪がある。	ボランティアの来訪が少ないようです。毎年、管理者が参加しているケアプラザ主催のボランティア交流会の機会を生かすなど、新たなボランティアの受け入れに取り組むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の夏祭りや防災訓練に参加して、いつでも相談ができる旨を伝えている。地域ケアプラザにも認知症サポーター養成講座に協力できる体制を伝えている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご利用者のご家族、地域ケアプラザ所長様、町内会長様を交えての運営推進会議を行い、情報共有を行ってサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、年6回偶数月に開催し、町内会長、地域ケアプラザ所長（地域包括支援センター責任者）、利用者家族が参加している。町内会長からは、オレオレ詐欺に関する情報提供があった。地域ケアプラザから洋光台フィットネスを紹介され、利用者の健康体操に活用している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>必要があれば連絡をとり、協力的体制関係が築けるよう心がけている。介護相談員の受け入れを行っている。区が主催の研修会などに参加している。</p>	<p>市の介護事業指導課には、事故報告の他、運営に関する相談をしている。区の介護相談員を受け入れ、管理者が相談員の交流会に参加している。市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や職員の交換研修を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしないホーム」という事業所理念の理解を深めるため、年間研修計画に取り入れ日々取り組んでいる。	「身体拘束等の適正化のための指針」、「高齢者虐待防止のマニュアル」を整備している。身体拘束等防止のための研修を年に2回実施し、毎月の全体会議でも確認している。2階フロアは、階段での事故防止のため施錠しているが、玄関と1階のフロアは、日中は施錠していない。事業所内に職員の提案箱を設置して、スピーチロック等を注意し合うツールにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をおこない、ネグレクトや言葉による虐待についても理解を深め、スタッフ一人ひとりが意識を持って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員のスタッフが学ぶ機会はあまりないが、管理者、リーダーは必要に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項説明書を開示し、入居前に不安や疑問点をお聞きしできるだけご要望に応え納得を得ている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様、ご家族様の要望には常に耳を傾ける姿勢を心がけ、ご家族様面会の際はスタッフ、管理者がお話を伺える時間を設けている。毎年法人で顧客満足度調査を実施して運営の参考にしている。</p>	<p>家族会を年2回開催している。法人が、顧客満足度調査を実施した結果、外出やレクリエーションを増やして欲しい等の要望や意見があった。外出の時間を作る為、事業所運営の見直しを行っている</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、定期会議において常にスタッフの意見や提案を聞き反映させられるようにしている。	職員意見は、毎月のカンファレンスや全体会議で聞いている。クリスマス会でのハンドベル演奏は職員からの提案で実施した。職員提案箱の設置も職員の提案によるものである。新人職員には、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年経過時に個人面談を実施している。その他、現任の職員も含め、必要に応じて随時面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態、時間数、夜勤の負担などのヒアリングを行い離職防止、把握に努めている。モチベーションアップにつながるキャリアアップ制度を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ制度の他、個々に見合った社内研修やグループホーム連絡会開催の研修に参加してトレーニングができるようにしている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>現場研修制度を利用して、他法人のグループホームへの交換研修に参加して、交流・勉強を行う機会を作っている。グループホーム連絡会のブロック会に参加して他事業所とのつながりを持つようにしている。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後はご本人のお話を聞く時間を多く持ち、カンファレンスや申し送りにより情報共有をおこない、ケアプランの見直しを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時からご要望をお聞きする時間を多くとり、ご本人の様子をご家族に電話連絡し、できる限り不安を取り除くよう配慮しながら信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談より、ご本人と話をし「こうしたい」「こうなりたい」などの希望や要望をお聞きし、共有しながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、お手伝いいただけることをできるだけ一緒に行い、感謝の言葉をかけ、アットホームな共同生活の場を築き、関係性を保つよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を通してご家族と絆を深め、思い出作りの場面を設け、共にご本人を支えていく関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問時には、気兼ねなくお話していただけるようなスペースを確保し、ゆっくりしていただけるような雰囲気作りをしている。 電話などのやりとりも支援している。	学生時代の友人、職場の同僚だった方等の来訪がある。信仰している宗教の関係者が来訪し、集会に参加したり、馴染みの美容室に出かける利用者もいる。家族が同行して墓参りや入居前に住んでいた地域の老人会に出かけている例もある。来訪者には、お茶を出してもてなし、職員が同席して、会話に加わることもある。手紙等の代読、家族への電話の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性を把握し、フロアでの座席も考慮している。出来る限り良好な関係性を築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後に退去された入居者様のご家族から、移転先の相談を受けて空き情報などを提供するなど連絡をとり支援を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で傾聴する時間をできるだけとるよう心がけ、ご本人の思い、希望、「こんなふうに過ごしたい」などの意向を汲み取れるよう努めている。	散歩や入浴中にふと漏らした言葉から利用者の思いや意向を汲み取っている。汲み取った思いや意向は、カンファレンスや介護記録などにより職員間で情報共有している。意向の把握が困難な利用者には、表情やしぐさでその時の気持ち等を推し量かっている。家族との情報交換も大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの話し、アセスメントなどから生活歴などを把握し支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や排泄・水分チェック表などの帳票を活用し、一日の過ごし方、心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、ご本人、ご家族の意向、医療機関などの意見も反映させ現状に即した介護計画を作成している。	入居前に家や施設を訪問して、家族から生活歴や希望を聞いて暫定的な介護計画を作成している。入居後にモニタリングして1~2カ月で見直しをしている。その後は長期目標は1年、短期目標は6ヶ月毎に、変化があれば随時変更している。管理者、計画作成担当者、全職員が参加する毎月のカンファレンスを経て、医療情報や家族の意見を反映した介護計画を作成している。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>管理日誌、申し送りノートなどの帳票を利用し、連絡を密にとり、情報共有に努めている。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の重度化により発生する個々のニーズ、その他状況の変化により生まれるニーズに出来る限り柔軟に対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、活動支援により一人ひとりが持っている力を出来る限り発揮し、楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療が月2回ある。かかりつけ医と連携をとりながら重症化を防ぎ、良好な関係作りにも努めている。協力医の総合病院の地域連携担当とも連携し、受診時間の短縮に便宜を図ってもらっている。	数名の利用者は、従前からのかかりつけ医の受診を継続している。協力医の訪問診療が月2回あり、歯科は週に1～2回、訪問看護師は毎週、訪問マッサージは、週に1～2回の訪問がある。皮膚科、耳鼻科などの専門医への受診は、家族が対応している。受診管理記録には、職員と医師・看護師間で情報共有できるように伝達事項が記載されている。協力医療機関への通院は、職員が付き添っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問があり、受診記録などにより連携を密に取り適切な受診を受けられるように支援している。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には病院関係者と連絡を密にとり、ご本人、ご家族が不安なくできるだけ早期に退院できるよう支援している。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針についてご説明し、ご本人やご家族の意向に沿って出来る限りの対応をおこなっている。身寄りのない入居者様の看取り後に、職員・入居者様とで納棺、ホームから出棺しお別れ会を行った。ターミナルケアを考える機会となった。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。できるだけ利用者、家族の意向に沿った対応に努めることが事業所の方針である。昨年、一昨年とも看取りを行っている。昨年は、事業所内で納棺し、利用者、職員でお見送りをした。	「指針」を策定していますが、重度化対応マニュアルが未整備であり、研修は、必ずしも十分ではないようです。マニュアルの整備と研修の充実を期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、研修を行い、連絡網や対応についても確認をおこなっている。AEDの使用法などの研修に職員が参加した。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員、地域の方をまじえての防災避難訓練（夜間も含む）を実施し、災害時の対応に備えている。町内会保有のスタンドパイプ式放水器をホームで預かり、近隣住民の方々が災害時に即時利用ができるように協力している。	防災避難訓練は、年に2回、うち1回は夜間想定で消防署の立会のもと実施している。訓練には町内会長が参加しており、地域の防災訓練には、管理者が参加している。食器棚や冷蔵庫には、転倒防止器具を設置し安全確保を図っている。非常用備品リストに沿って非常用の3日分の飲料水、食料、携帯トイレや乾電池などの備品を備蓄している。廊下には、「避難経路図」、「災害発生時の具体的フロー」を掲示し、消火器が設置されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についての研修を行っている。個人情報保護のテストも毎年実施している。 言葉かけは、信頼関係が成り立った上での気軽な言葉かけをするスタッフもいるが、個々により違いはある。	毎年、法人作成の「コンプライアンス・個人情報保護トレーニングテキスト&理解度チェック」を使用して個人情報保護の研修を実施している。 トイレ使用时には利用者の羞恥心に配慮しているなど、人格を尊重した支援をしている。個人情報を含む書類は、事務所内の施錠できる書架に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が、遠慮なく希望や思いを伝えられる関係、雰囲気作りを行い、いくつかの中から選んだり、決定したりする場面も作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	カンファレンスの時間を使い、「その人らしさ」について話し合い、個々のペースにあった支援をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望の理美容に行き、使い慣れた化粧品を使い、意向に合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。訪問理容により、カットがホーム内でうけられるよう支援している。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>準備の段階は難しくなってきたが、下膳や食器洗い・拭きをお手伝いしていただいている。</p>	<p>食材と献立は、食材宅配業者に委託し、調理は職員が行っている。利用者は下拵え、盛り付け、食器洗い、食器拭きを職員と一緒にやっている。ミキサー食など、利用者の状況にあった食事形態で対応している。職員は、必要な利用者の食事介助をし、利用者と同じテーブルで食事をしている。寿司、うなぎなどの出前をとったり、七夕や雛まつりには行事食を楽しんでいる。</p>	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をすべて帳票に記録し把握することにより、脱水症状などを予防している。個々の状態により食事形態を変え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の利用あり。義歯の不具合などにも対応でき、定期検診により口腔内チェックもおこなうようにしている。口腔衛生管理体制加算を8月より取得して、口腔ケアの技術向上を目指している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パットへの失禁が多い場合には、誘導時間を替えてみるなどし、立位が不安定な利用者様も日中は2人で介助するなどトイレでの排泄をできるだけ促すようおこなっている。	「排泄・水分チェック表」を活用し、排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導をしている。おむつ使用の利用者も、日中は、なるべくトイレでの排泄ができるように支援している。トイレは、各ユニットに3ヶ所、うち2か所は車椅子での利用が可能であり、跳ね上げ式の手すりも設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動、腹部のマッサージなどにより、できる限り自然排便を促している。便秘が続いたときは、医師の指示を仰ぎ、薬により調整を行っている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時間は毎日設けているが、拒否があった場合は、ご本人の意向を伺い、時間や曜日を変えている。毎日入浴の希望がある利用者様にも対応できる体制を整えている。 入浴ができない場合は清拭、足浴で対応している。</p>	<p>入浴は、週に2回、午前の時間帯が原則であるが、回数・時間帯は柔軟に対応している。毎日入浴している利用者もいる。入浴を好まない利用者には、無理強いをせず、時間をずらす、対応する職員を代える、翌日に入浴を促すなどの対応をしている。希望があれば同性介助をし、好みの石鹸、シャンプーを使うなど個々に応じた支援をしている。浴室、脱衣室には、換気・暖房設備が設置されている。</p>	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて、いつでも休息や睡眠がとれる環境づくりを行い、必要な方は褥瘡予防のため、午前、午後と居室で横になっていただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は見やすいようにファイリングしており、副作用についてもいつでも閲覧し確認できるようになっている。疑問に思うことは薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野、嗜好などをアセスメントやご本人、ご家族からお聞きし、一人、一人に合った楽しみごと、役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩で外出する機会をできるだけ多く持ち、希望に添った支援を行っている。理容室や衣類購入などにスタッフが付き添って外出している。	天気の良い日は、車椅子の利用者も含めて、駅周辺や近隣の公園を散歩したり、買物に出かけている。外出の際は、歩行が難しい利用者が多いので、安全確保のため職員と利用者はマンツーマンで出かけている。また、事業所の広いテラスで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり好きなように使うことはできるが、日常的に所持はしていない。希望に応じて小額の所持も支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があればいつでも電話をかけることができ、つながることができる体制を作り支援している。携帯電話を所持してご家族へ連絡をしている入居者様もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所がわかりやすい様ドアの床とドアの色分けをしている。共有フロアー、居室はバリアフリーで、玄関は季節ごとに飾りを替え季節感を味わえるような配慮を行っている。	フロアは、毎日、掃除機とモップを使用して清掃し、リビングは食事の都度汚れた部分を清掃している。トイレは、消毒液を使って衛生管理に努めている。フロアには、床暖房の設備があり、乾燥する時期には加湿器を使用している。また、リビング、廊下の壁には、利用者が作成した切り絵、貼り絵、イベント時の写真が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し自由に座り、会話を楽しめる環境作りをしている。和室もあり、くつろげる空間作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れた家具を持参いただき、できるだけ居心地よく馴染みの空間を作り心地よく生活出来る様工夫している。	照明器具、エアコン、クローゼット、防災カーテン、換気扇が備え付けになっている。利用者は、馴染みのベッド、家具、家族写真のほか、テレビ、カレンダー等を持ち込んでいる。居室担当者は、家族と協力して、衣替え等を支援している。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持っている力を発揮できる場面を作り、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		
----	--	---	---	--	--

事業所名	二チイケアセンター洋光台
ユニット名	みずばしょう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に暮らす一員として、明るく笑顔で毎日の生活が送れるよう毎朝の朝礼で理念を唱和し共有し意識を高め実践を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内とのつながりを持っている。町内会のスタンドパイプ式放水器を預かったり、中学校の体験学習の受け入れを行うなど交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の夏祭りや防災訓練に参加して、いつでも相談ができる旨を伝えている。地域ケアプラザにも認知症サポーター養成講座に協力できる体制を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者のご家族、地域ケアプラザ所長様、町内会長様を交えての運営推進会議を行い、情報共有を行ってサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要があれば連絡をとり、協力体制関係が築けるよう心がけている。介護相談員の受け入れを行っている。区が主催の研修会などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしないホーム」という事業所理念の理解を深めるため、年間研修計画に取り入れ日々取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をおこない、ネグレクトや言葉による虐待についても理解を深め、スタッフ一人ひとりが意識を持って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員のスタッフが学ぶ機会はあまりないが、管理者、リーダーは必要に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項説明書を開示し、入居前に不安や疑問点をお聞きしできるだけご要望に応え納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様の要望には常に耳を傾ける姿勢を心がけ、ご家族様面会の際はスタッフ、管理者がお話を伺う時間を設けている。毎年法人で顧客満足度調査を実施して運営の参考にしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、定期会議において常にスタッフの意見や提案を聞き反映させられるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態、時間数、夜勤の負担などのヒアリングを行い離職防止、把握に努めている。モチベーションアップにつながるキャリアアップ制度を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ制度の他、個々に見合った社内研修やグループホーム連絡会開催の研修に参加してトレーニングができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現場研修制度を利用して、他法人のグループホームへの交換研修に参加して、交流・勉強を行う機会を作っている。グループホーム連絡会のブロック会に参加して他事業所とのつながりを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後にご本人のお話を聞く時間を多く持ち、カンファレンスや申し送りにより情報共有をおこない、計画作成担当者と連携をとりケアプランの見直しを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時からご要望をお聞きする時間を多くとり、ご本人の様子をご家族に電話連絡し、できる限り不安を取り除くよう配慮しながら信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談より、ご本人と話をし「こうしたい」「こうなりたい」などの希望や要望をお聞きし、共有しながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、お手伝いいただけることをできるだけ一緒に行い、感謝の言葉をかけ、アットホームな共同生活の場を築き、関係性を保つよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を通してご家族と絆を深め、思い出作りの場面を設け、共にご本人を支えていく関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問時には、気兼ねなくお話していただけるようなスペースを確保し、ゆっくりしていただけるような雰囲気作りをしている。 電話などのやりとりも支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性を把握し、フロアでの座席も考慮している。問題が発生した場合、すぐに席替えを行っている。出来る限り良好な関係性を築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後に退去された入居者様のご家族から、移転先の相談を受けて空き情報などを提供するなど連絡をとり支援を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で傾聴する時間をできるだけとるよう心がけ、ご本人の思い、希望、「こんなふうに過ごしたい」などの意向を汲み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの話し、アセスメントなどから生活歴などを把握し支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や排泄・水分チェック表などの帳票を活用し、一日の過ごし方、心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、ご本人、ご家族の意向、医療機関などの意見も反映させ現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、申し送りノートなどの帳票を利用し、連絡を密にとり、情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の重度化により発生する個々のニーズ、その他状況の変化により生まれるニーズに出来る限り柔軟に対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、活動支援により一人ひとりが持っている力を出来る限り発揮し、楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療が月2回ある。かかりつけ医と連携をとりながら重症化を防ぎ、良好な関係作りにも努めている。協力医の総合病院の地域連携担当とも連携し、受診時間の短縮に便宜を図ってもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問があり、受診記録などにより連携を密に取り適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と連絡を密にとり、ご本人、ご家族が不安なくできるだけ早期に退院できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針についてご説明し、ご本人やご家族の意向に沿って出来る限りの対応をおこなっている。身寄りのない入居者様の看取り後に、スタッフ・入居者様とで納棺、ホームから出棺しお別れ会を行った。ターミナルケアを考える機会となった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、研修を行い、連絡網や対応についても確認をおこなっている。AEDの使用法などの研修に職員が参加した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員、地域の方をまじえての防災避難訓練（夜間も含む）を実施し、災害時の対応に備えている。外部主催の防災研修にも職員を参加させている。町内会保有のスタンドパイプ式放水器をホームで預かり、近隣住民の方々が災害時に即時利用ができるように協力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についての研修を行っている。個人情報保護のテストも毎年実施している。 言葉かけは、信頼関係が成り立った上での気軽な言葉かけをするスタッフもいるが、個々により違いはある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が、遠慮なく希望や思いを伝えられる関係、雰囲気作りを行い、いくつかの中から選んだり、決定したりする場面も作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	カンファレンスの時間を使い、「その人らしさ」について話し合い、個々のペースにあった支援をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望の理美容に行き、使い慣れた化粧品を使い、意向に合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。訪問理容により、カットがホーム内でうけられるよう支援している。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様とスーパーに食材を買いに行き、調理、盛り付け、片付けなどお手伝いしていただいている。		
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をすべて帳票に記録し把握することにより、脱水症状などを予防している。個々の状態により食事形態を変え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の利用あり。義歯の不具合などにも対応でき、定期検診により口腔内チェックもおこなうようにしている。口腔衛生管理体制加算を8月より取得して、口腔ケアの技術向上を目指している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パットへの失禁が多い場合には、誘導時間を替えてみるなどし、トイレでの排泄をできるだけ促すようおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動、腹部のマッサージなどにより、できる限り自然排便を促している。便秘が続いたときは、医師の指示を仰ぎ、薬により調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は毎日設けているが、拒否があった場合は、ご本人の意向を伺い、時間や曜日を変えている。毎日入浴の希望がある利用者様にも対応できる体制を整えている。 入浴ができない場合は清拭、足浴で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて、いつでも休息や睡眠がとれる環境づくりを行い、必要な方は褥瘡予防のため、午前、午後と居室で横になっていただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は見やすいようにファイリングしており、副作用についてもいつでも閲覧し確認できるようになっている。疑問に思うことは薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野、嗜好などをアセスメントやご本人、ご家族からお聞きし、一人、一人に合った楽しみごと、役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買物や散歩で外出する機会をできるだけ多く持ち、希望に添った支援を行っている。地域の知り合いの方と美容院へ通う入居者様がいらっしゃる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり好きなように使うことはできるが、日常的に所持はしていない。希望に応じて小額を所持してお菓子を買に行くなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があればいつでも電話をかけることができ、つなぐことができる体制を作り支援している。携帯電話を所持してご家族へ連絡をしている入居者様もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所がわかりやすい様ドアの床とドアの色分けをしている。共有フロアー、居室はバリアフリーで、玄関は季節ごとに飾りを替え季節感を味わえるような配慮を行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し自由に座り、会話を楽しめる環境作りをしている。和室もあり、くつろげる空間作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れた家具を持参いただき、できるだけ居心地よく馴染みの空間を作り心地よく生活出来る様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持っている力を発揮できる場面を作り、安全でできるだけ自立した生活が送れる様支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニクイアセンター-洋光台

作成日 令和元年 5月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	「指針」を策定しているが、重度化対応マニュアルが未整備であり、研修は必須だがマニュアルの整備と研修の充実をはかる必要がある。	スタッフ全員が重度化の対応の知識を持つことがよい。	研修の機会を増やし、スタッフの知識を深め、ホーム全体が対応できる様にする。	3ヶ月
2	2	ボランティアの来訪がよい。	ボランティアの来訪を定期的に率てもらう関係性を築く。	交流会等に積極的に参加し、ボランティア等の知見を学ぶ所から始める。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。